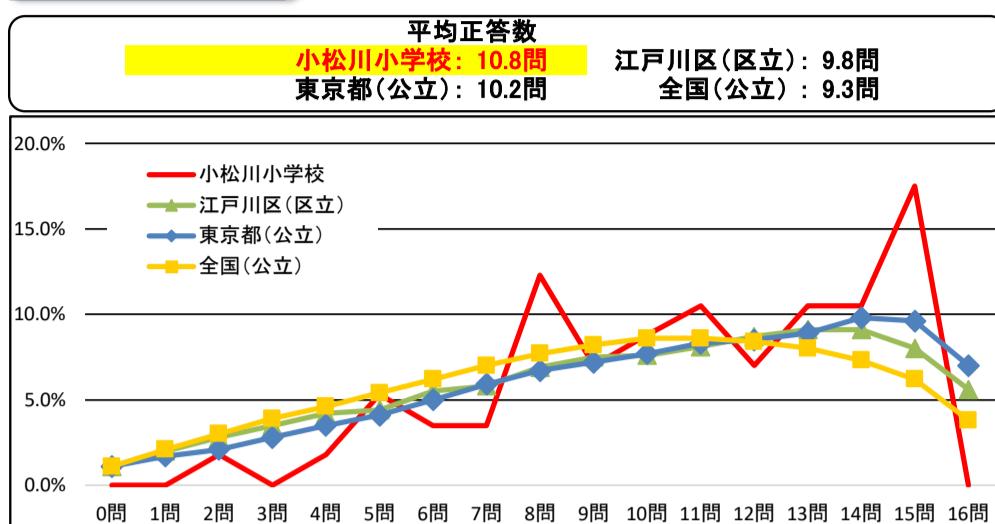


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】小松川小学校

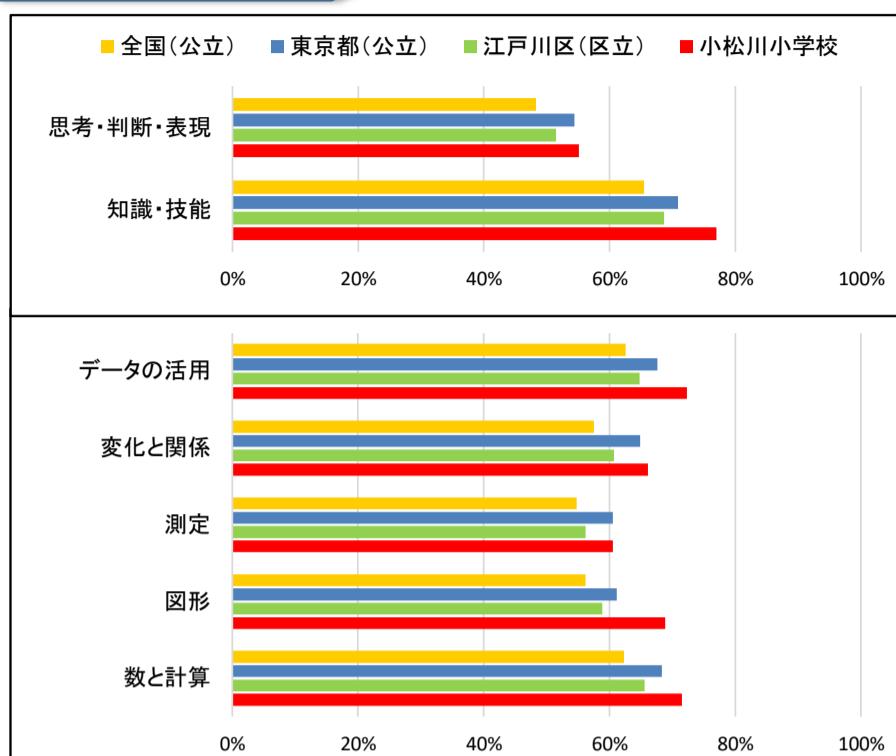
## 正答数分布



### 【平均正答率の差】

| 小学校        | 74%  |
|------------|------|
| 江戸川区(区立)   | 61%  |
| 東京都(公立)    | 64%  |
| 全国(公立)     | 58%  |
| 都との差(ポイント) | 10.0 |

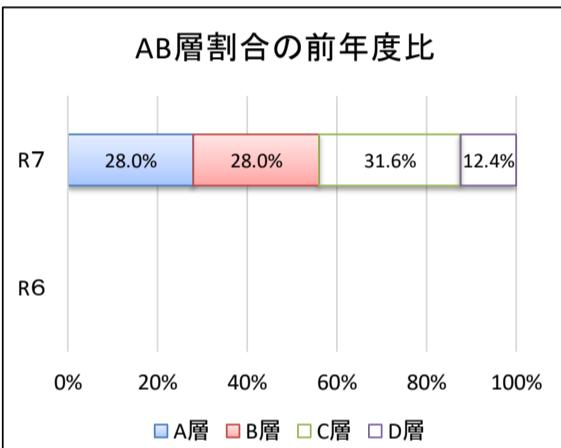
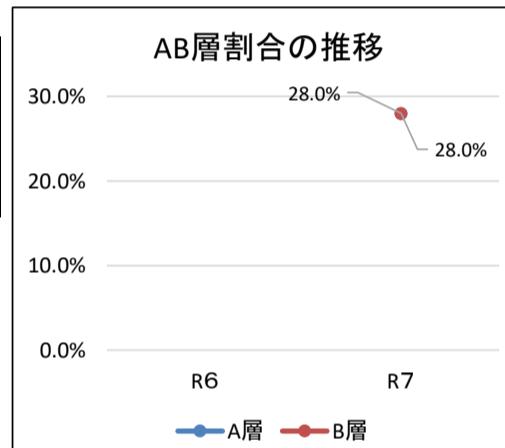
## 「領域別」の結果



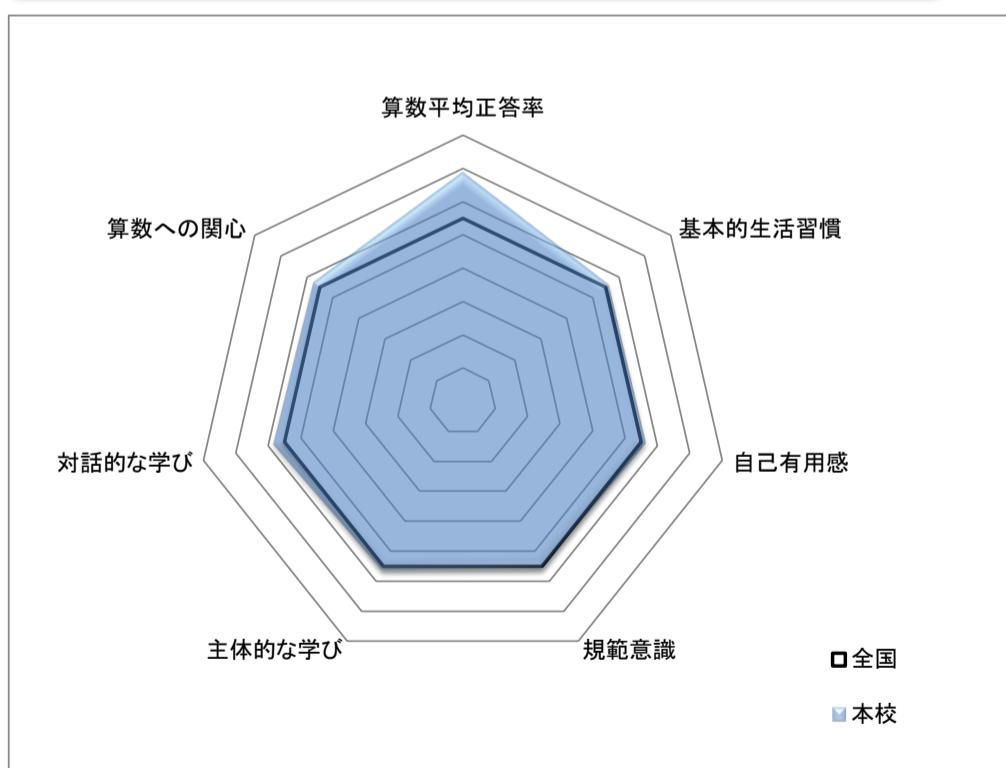
## 四分位における割合 (都全体の四分位による)

| 算数       | 上位 ← → 下位 |       |       |       |
|----------|-----------|-------|-------|-------|
|          | A層        | B層    | C層    | D層    |
| 小松川小学校   | 28.0%     | 28.0% | 31.6% | 12.4% |
| 江戸川区(区立) | 22.7%     | 25.9% | 27.9% | 23.5% |
| 東京都(公立)  | 26.4%     | 25.7% | 27.6% | 20.3% |
| 全国(公立)   | 17.3%     | 25.0% | 31.4% | 26.3% |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

他の観点と比較して、算数平均正答率が突出している。全国と比較して16%ほど高くなっていることが分かる。全体的に見ると、バランスのよい七角形となっている。

### 《家庭・地域への働きかけ》

低学年では、1年生が算数カードで足し算と引き算の予習・復習。2年生がかけ算九九の暗唱を行っている。家庭に協力を仰いで音読に取り組むことで、基礎学力の定着を図っている。

東京ベーシックドリルを活用し、各学年で前年度までの算数の定着度を調べ、結果を家庭にも伝えて、復習に取り組んでいる。

### 《現状把握》

#### ●AB層の割合と取組内容について

国語のAB層の割合は56%と、都や区と比較しても、高い割合である。しかしながら、「正答数分布」を見ると、全問正答者は0人。問題を見直してケアレスミスを減らす努力や自分の考えを正確に伝える力が課題である。

### 《学校の取組》

#### ・教員の指導力向上

校内研究では、算数を主として、指導力向上に向けた取組を行っている。具体的には、45分の授業を、導入・展開・まとめに分け、問題解決的学習の流れで展開していく。

また教員を小グループに分け、互いの授業を参観したり、他校、他区の指導教員の授業を参観し、どんな内容であったかなどを教職員で共有したりしながら、本校の実践につなげている。

#### ・基礎学力の保障

基礎学力を定着させるために、本校では学習カルテを作成している。前学年の学習内容のテストを行い課題を明らかにし、朝学習等で苦手な内容のプリントに重点的に取り組んでいる。また、放課後にも個別に取り出しを行い、当該学年の学習内容の定着を図っている。

#### ・学習習慣の確立

朝学習では、曜日ごとに内容を設定しプリント等に取り組んでいる。また、学年毎に児童の実態に応じた量の宿題を設定している。

#### ・AB層の育成

今年度、算数プロジェクトチーム(算数PT)に学校として参加し、AB層の育成のための研修を行っている。内容としてはAB層の児童が授業により積極的に取り組むことができる課題や授業展開について研修を行った。

タブレットのマイライシードを活用し、授業の課題が終わった児童に追加の課題を出したり、児童がレポートを作成したりすることで、それぞれの実態に合わせた個別指導を行っている。